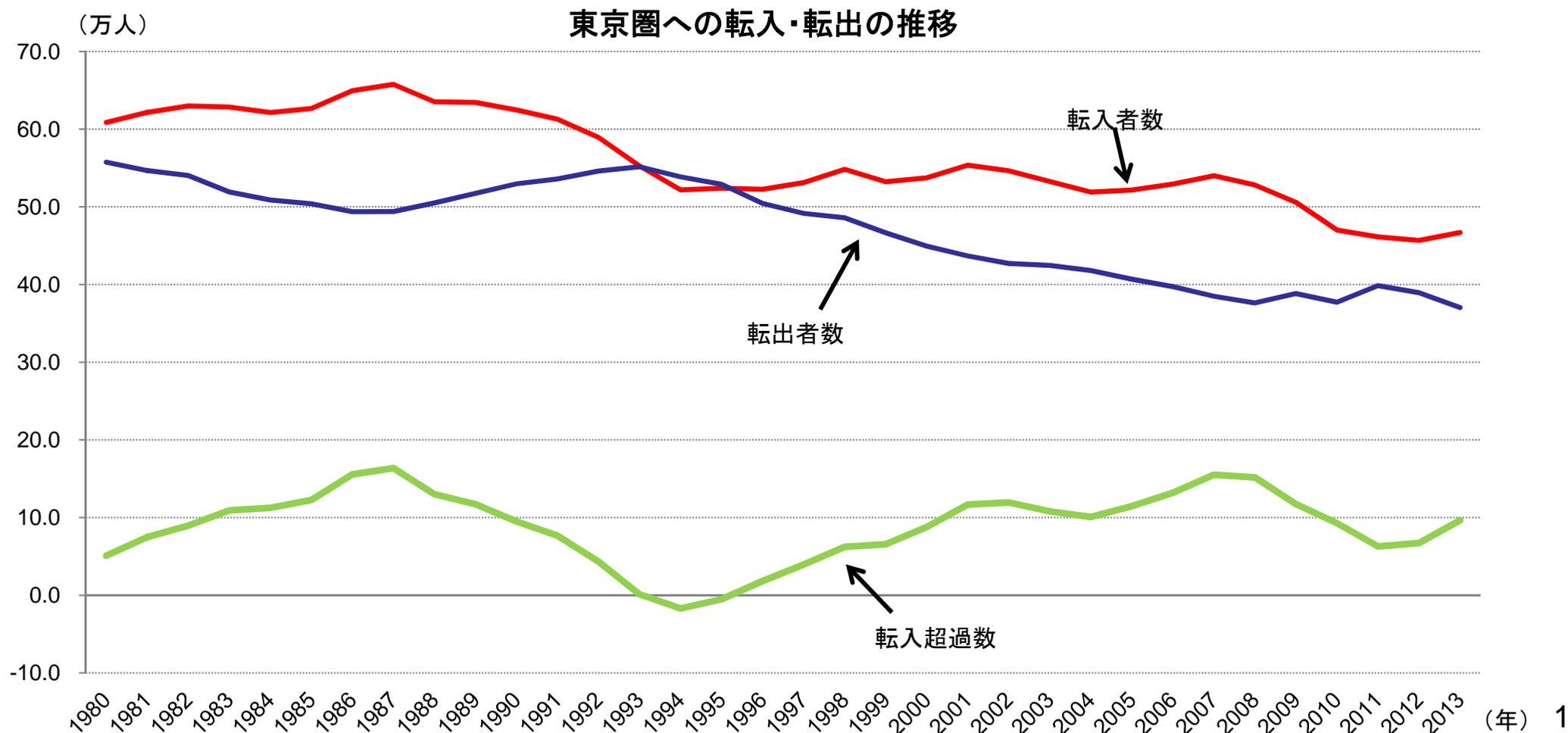


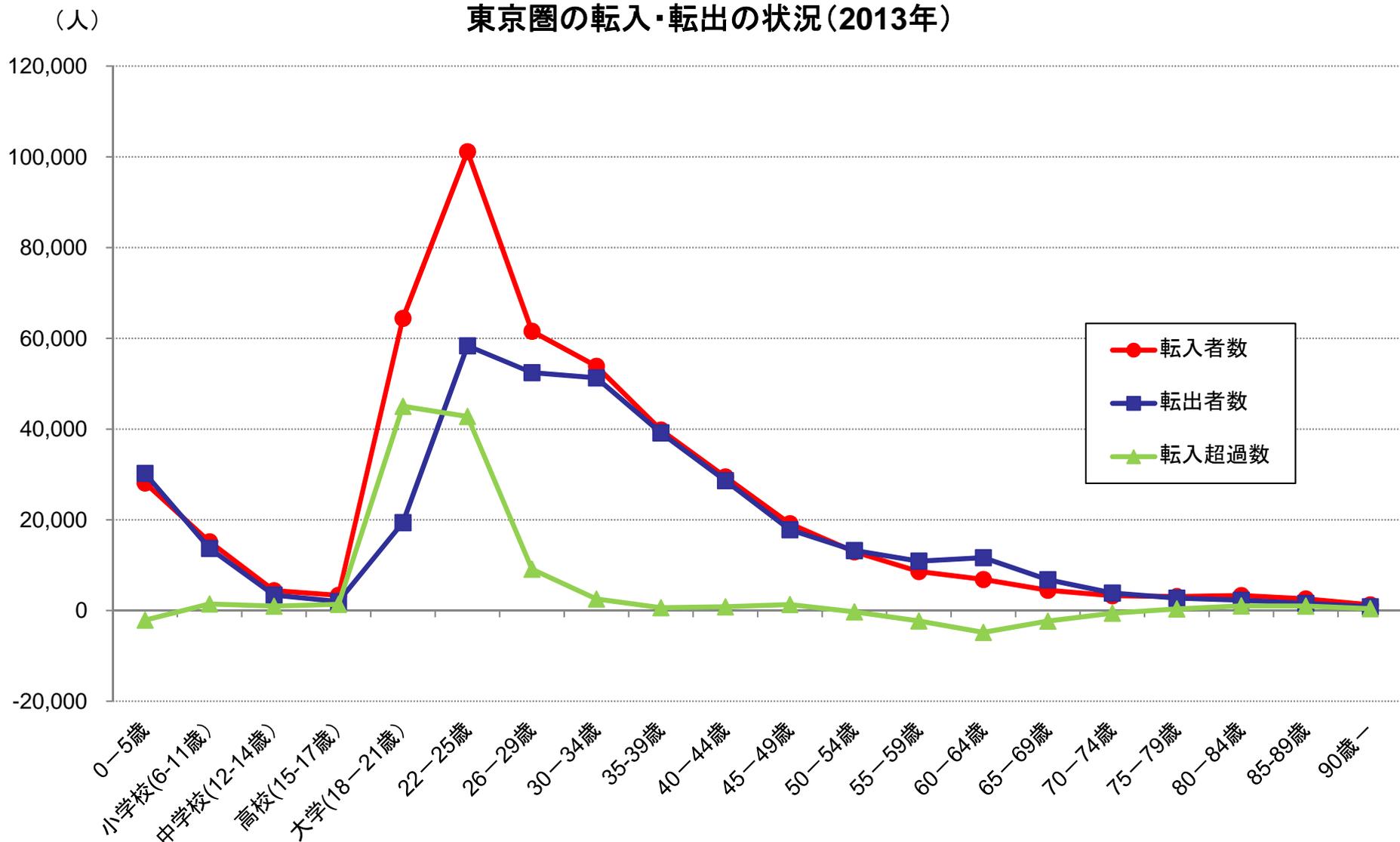
東京圏への転入・転出の推移について

- 90年代後半から2008年にかけて転入超過数の増加がみられる。この間、転入者数はほぼ横ばいであるものの、**転出者数が一貫して減少しており、東京圏への「滞留」が転入超過の原因となっている。**
- 2008年以降はリーマンショックや2011年の東日本大震災の影響で、東京圏への転入者数は減少し、転出者数が増加したことにより、転入超過数は減少した。
- 2012年からは、再び転出者数が減少に転じている。



(出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成。

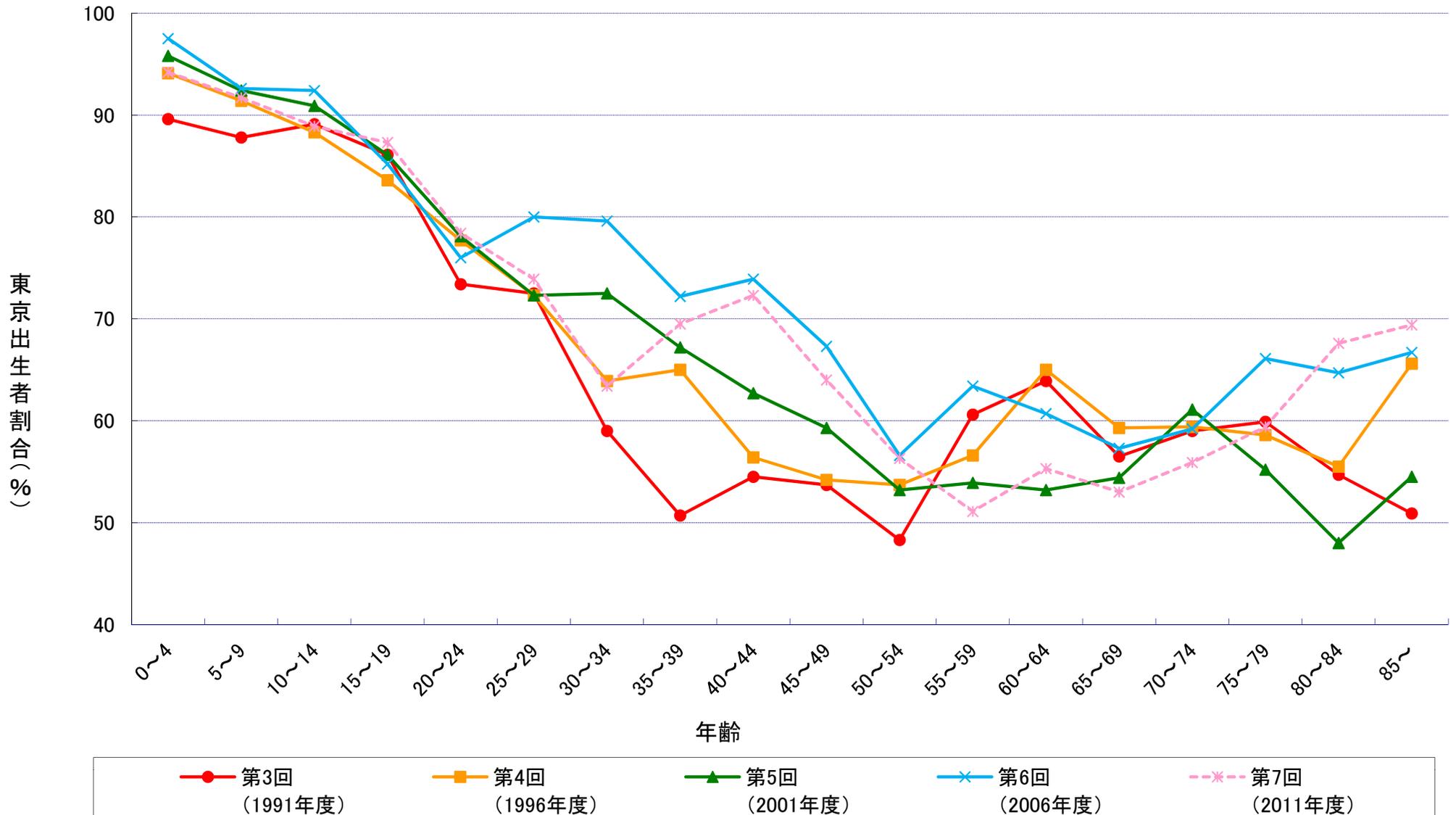
- 大学進学期に、転入超過数のピークを迎えている。
- 転入者数については、大学卒業後の就職の時期にピークを迎えている。



(出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成。

○ 年齢別で見ると、1991年度調査から2006年度調査まで30～40代で東京圏出生者割合の上昇が見られる。

東京圏居住者に占める東京圏出生者の割合(年齢別)



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「人口移動調査」をもとに、国土交通省国土政策局総合計画課作成。

(注1) 東京圏とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県をいう。

(注2) 出生県不詳を除く。